



2021年度

高度IT人材育成研修

研修ホームページ <https://www.nico.or.jp/kensyu/>



Niigata
Industrial
Creation
Organization

公益財団法人
にいがた産業創造機構

〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号「万代島ビル」(公財) にいがた産業創造機構 9~10F / NICO プラザ 11F
TEL.025-246-0025 FAX.025-246-0030 E-mail info@nico.or.jp URL <https://www.nico.or.jp>

◆ NICOの高度IT人材育成研修について

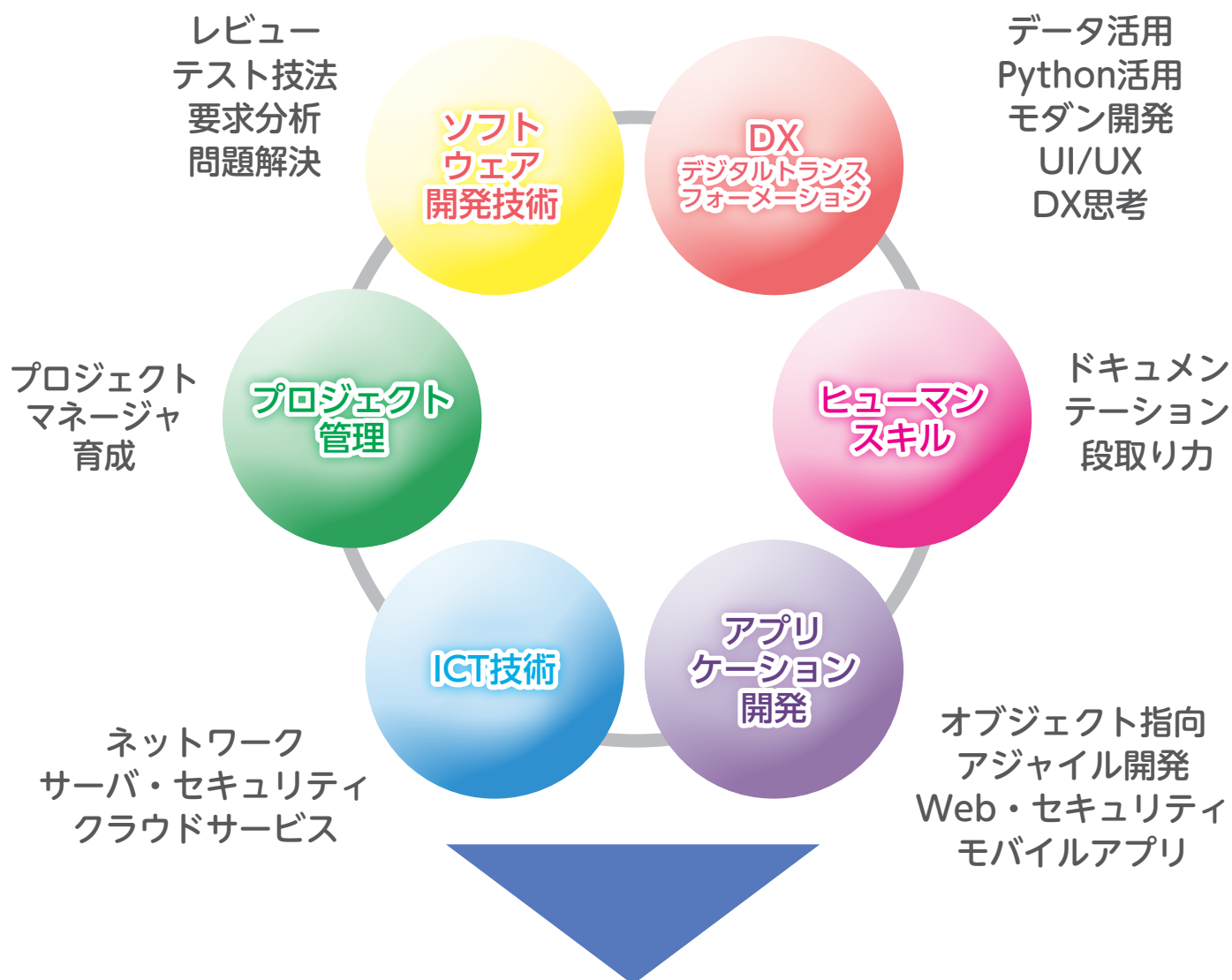
公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO）では、ITを競争力の源泉とする付加価値の高い産業群の創出を目指し、2003年度から「高度IT人材育成研修」を実施し、延べ5,500名のIT人材を輩出してきました。

本研修は、新潟県において、高度な設計・開発技術を有するリーダークラスやAI・IoT等の高度ITを活用できる企業内人材を育成するため、下図の視点で講座を開講しています。

ソフトウェアの設計・開発技術については、情報処理推進機構（IPA）が公表しているITスキル標準（ITSS）、ITSS+に対応したレベル感を明確にして体系立てたカリキュラムを構成しており、ソフトウェア開発の上流工程を担える高度な開発設計技術を有するリーダークラスの人材育成を目指しています。

また、IT活用により人々の生活やビジネスを大きく変革させる「デジタルトランスフォーメーション」の波に乗り遅れない強い企業をつくるために、近年注目されているAI、IoT等の最新技術を活用した新たなビジネスを創出できる人材育成の講座も開設しています。

NICOは、本事業を通じて、県内IT技術者のスキルレベルの向上を図るとともに、最新技術への対応や新ビジネス創出ができる人材＝次世代の高度IT人材を育成します。

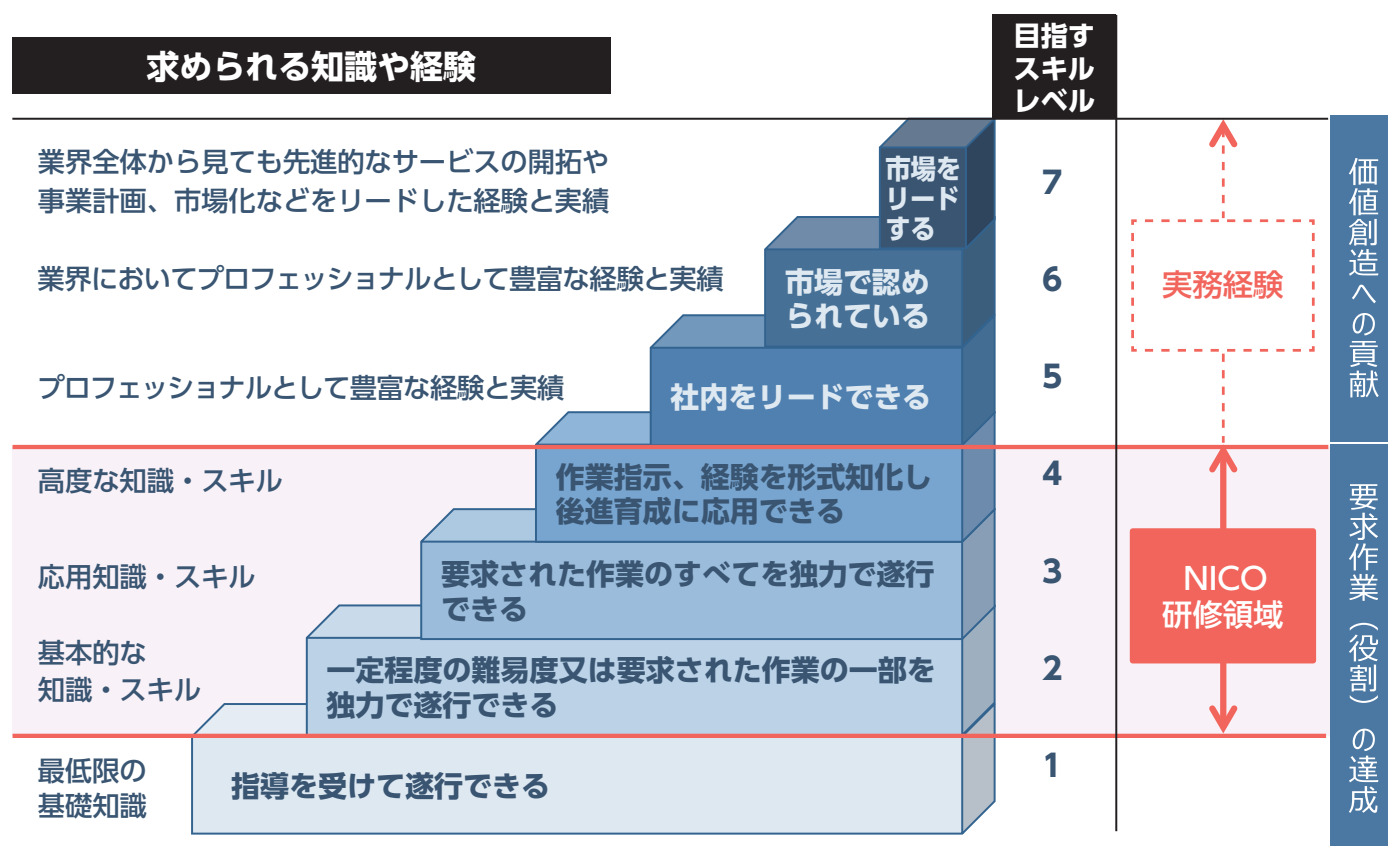


IT活用による県内産業の付加価値向上、新ビジネスの創出

◆ リーダークラスとは

本研修は、ITスキル標準（ITSS）、組込みスキル標準（ETSS）に対応したスキルとキャリアを明確にして、レベル感を明らかにしながら、ソフトウェア開発の上流工程を担える高度な開発設計技術を有する技術リーダークラスの人材育成を目指します。（一部の講座は、ITSS+に対応）

ITエンジニアのリーダークラス(ミドルクラスからハイクラス)へ



◆ 個人情報の取り扱いについて

本研修の受講にあたり開示いただいた個人情報は、研修の開催・運営業務及び研修ニーズ調査など高度IT人材育成研修事業にのみ利用させていただきます。また、個人情報の管理は、当機構の「個人情報保護の方針（プライバシーポリシー）」（参照ホームページ：<https://www.nico.or.jp/privacy/>）に基づき適切に保護措置を行います。

◆ 2021年度 高度IT人材育成研修 講座一覧

研修会場：NICOプラザ研修室・会議室（新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル11F）又はオンライン 研修時間：9:30～17:15

講座 No.	講座名	定員	日数	ITSS/レベル	受講料(円)	開催予定日	掲載頁
■ソフトウェア開発技術向上コース							
SS 1	システム開発におけるレビュー技法	20	2	3	66,000円	10月21日(木)～10月22日(金)	5
SS 2	システム開発におけるテスト技法	16	2	1～3	66,000円	8月11日(水)～8月12日(木)	5
SS 3	成功するプロジェクトのための要求引出しと要求分析	16	2	4	61,000円	8月19日(木)～8月20日(金)	5
SS 4	SCRUMによるソフトウェア開発とツールの活用実践	16	2	3～4	61,000円	2022年 2月17日(木)～2月18日(金)	5
■プロジェクトマネージャ育成コース							
PM 1	PMBOK®ガイド 入門（第6版準拠）	15	2	3	66,000円	9月13日(月)～9月14日(火)	6
PM 2	PMBOK®ガイドに基づくプロジェクトマネジメント実践	16	3	3	76,000円	12月1日(水)～12月3日(金)	6
PM 3	プロジェクトを成功に導く交渉力強化	16	2	4	61,000円	12月8日(水)～12月9日(木)	7
PM 4	プロジェクト実践シミュレーションによる実行と監視・コントロールでの判断力強化	16	2	4	71,000円	2022年 1月20日(木)～1月21日(金)	7
■ICTスペシャリスト育成コース							
<ネットワーク標準コース>							
IT 1	ネットワークシステム基礎トレーニング	15	3	2	112,000円	11月17日(水)～11月19日(金)	8
IT 2	ネットワーク構築実習（基礎編）	15	3	2	112,000円	12月7日(火)～12月9日(木)	8
IT 3	ネットワーク設計・構築トレーニング	15	3	3	114,000円	2022年 1月12日(水)～1月14日(金)	8
IT 4	ネットワーク運用管理トラブルシューティング	15	2	3	100,000円	2022年 2月15日(火)～2月16日(水)	8
<プラットフォーム Linuxサーバコース>							
IT 5	Linux基礎と基本概念	15	3	2	61,000円	7月27日(火)～7月29日(木)	9
IT 6	セキュリティ観点からのLinuxサーバ・システム管理	15	3	2～3	61,000円	2022年 1月26日(水)～1月28日(金)	9
<クラウドサービスコース>							
IT 7	Microsoft365導入と管理	15	3	3	91,000円	12月15日(水)～12月17日(金)	9
■アプリケーションスペシャリスト育成コース							
<オブジェクト指向コース>							
AP 1	オブジェクト指向の理解とC#での実現	15	3	2～3	66,000円	7月13日(火)～7月15日(木)	10
AP 2	実践的オブジェクト指向設計・実装とリファクタリング（C#編）	15	3	3～4	66,000円	8月24日(火)～8月26日(木)	10
AP 3	Javaプログラミングで学ぶオブジェクト指向とその応用	15	3	2～3	66,000円	8月4日(水)～8月6日(金)	10
<Webアプリケーション開発コース>							
AP 4	Webアプリケーション開発のための情報セキュリティ対策	15	2	3	61,000円	11月11日(木)～11月12日(金)	11
<モバイルアプリ開発コース>							
AP 5	JavaによるAndroidアプリ開発入門	15	3	3	66,000円	10月27日(水)～10月29日(金)	11
■ヒューマンスキルコース							
HS 1	IT技術者のためのドキュメンテーション	16	2	3	50,000円	8月30日(月)～8月31日(火)	12
HS 2	失敗しないプロジェクトのための段取り力と先読み力	16	3	3	66,000円	10月5日(火)～10月7日(木)	12

（お知らせ）

新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、ネットワーク機器やサーバを利用する一部の講座を除き、オンライン開催となる場合があります。オンラインの場合は、お申込みいただいた方に事前にご案内いたします。

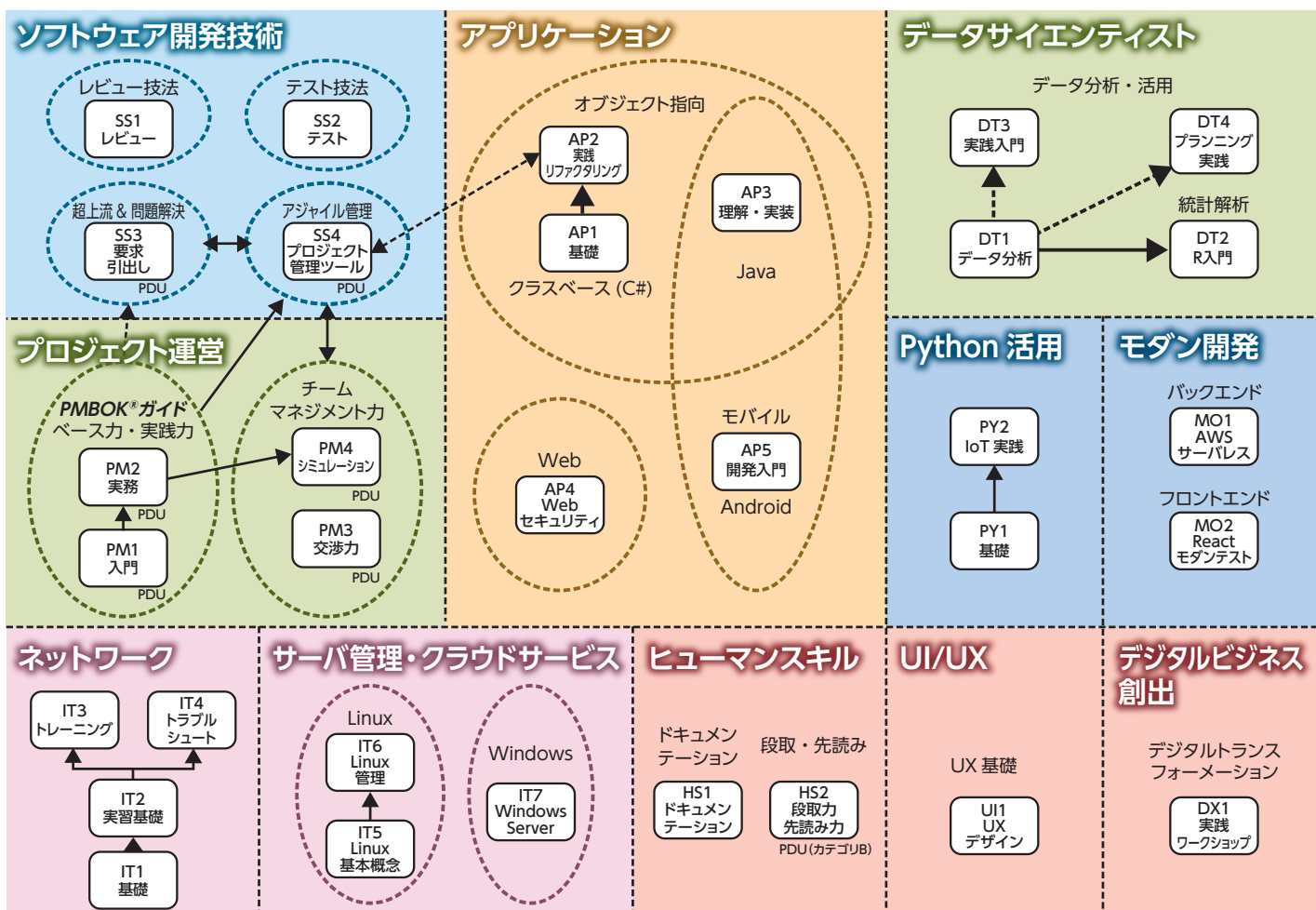
講座 No.	講座名	定員	日数	ITSS/レベル	受講料(円)	開催予定日	掲載頁
■データサイエンティスト入門コース							
DT1	データ分析手法の理論と適用 (E-ラーニング)	-	-	-	34,485円	5月～2022年 1月 (随時)	14
DT2	R言語によるデータ分析入門 (E-ラーニング)	-	-	-	10,240円	5月～2022年 1月 (随時)	14
DT3	データサイエンス実践入門	15	1	-	112,000円	10月 1日 (金)	14
DT4	データ活用プランニング実践	15	1	-	112,000円	11月26日 (金)	14
■Python活用コース							
PY1	体系的に学ぶPython基礎	15	3	2～3	81,000円	7月 6日 (火) ～ 7月 8日 (木)	15
PY2	Raspberry PiでIoT実践 (Python編)	15	3	3	81,000円	10月12日 (火) ～10月14日 (木)	15
■モダン開発コース							
MO1	AWSサーバレスアプリ開発実践	15	3	3	71,000円	2022年 2月 2日 (水) ～ 2月 4日 (金)	16
MO2	Reactによるリアクティブ・プログラミングとモダンテスト	15	3	2～3	71,000円	9月 8日 (水) ～ 9月10日 (金)	16
■UI/UXコース							
UI1	UXデザイン講座 (オンライン)	15	1	-	76,000円	10月19日 (火)	17
■デジタルビジネス創出コース							
DX1	デジタルトランスフォーメーション 実践ワークショップ	20	3	-	122,000円	9月16日 (木)、17日 (金)、24日 (金)	17

注1) DT1・DT2 (E-ラーニング) の受講料は本研修における価格です。標準価格は 36,300 円 (DT1)、10,780 円 (DT2) です。

注2) 受講料には消費税 (10%) 及び教材費が含まれます。

注3) 開催予定日時は講師の都合により変更になる場合があります。また、受講希望者が少ない場合は開講しないことがあります。あらかじめご了承ください。

注4) PMBOK、PMP は、プロジェクトマネジメント協会 (Project Management Institute, Inc.) の登録商標です。



◆ソフトウェア開発技術向上コース

【研修概要】

本コースは、レビュー、テスト、要求分析といったソフトウェア開発において重要な手法のスキルアップや知識の習得を目指します。どの講座もグループ演習を通じて、現場に適用するための技術が習得できます。講師は全て現場経験があり、現場に適用するためのノウハウも含めて学ぶことができます。

【コース体系】

(レベル)

L4
経験の知識化と
応用ができる

L3
単独で仕事をこなせる

[SS3] 2日間
成功するプロジェクトの
ための要求引出しと
要求分析

[SS4] 2日間
SCRUMによる
ソフトウェア開発と
ツールの活用実践

[SS1] 2日間
システム開発における
レビュー技法

[SS2] 2日間
システム開発における
テスト技法

SS1 ~より効果的・効率的にレビューを行うには~ システム開発におけるレビュー技法(2日間)	
特 徴	・システム開発において、プロジェクトチームとして効率的に機能するためのレビューについて、より効果的・効率的に進めるためのポイントを学ぶ。 ・単にレビューの技法を学ぶだけではなく、レビュー時のチェックの視点、レビューに対しての意識の持ち方なども学ぶ。 ・レビュー時間を短縮し、より重大な欠陥を見つけるレビューの実施を目指す。 ・よりレビュー効果の高い、上流工程におけるレビューを意識したカリキュラムになっている。
目 標	・様々なレビューの種類の違い、どのような視点でレビューを行うかの視点を学ぶことができる。 ・インスペクションのプロセスを通じて効率的、効果的なレビューの技法を学ぶことができる。 ・レビュー時間を短縮し、より重大な欠陥を見つけるレビューの進め方を学ぶことができる。
対象者	業務でレビューを主催する方、もしくはレビューに参加する方
前提知識	特になし（一度でもレビューに参加したことがある方が好ましい）
内 容	[1日目] 1. システム開発の現状とレビューの関係 2. システム開発の「見える化」とレビュー 3. プロセスレビューでの「見える化」ポイント 4. プロダクトレビュー実施におけるポイント 5. レビュー技法の種類と概要 6. レビューに参加する際の意識 7. 演習《レビューに関するディスカッション》 [2日目] 1. インスペクションの概要 2. インスペクションプロセス （Ⅰ）計画 （Ⅱ）概要説明 （Ⅲ）準備 （Ⅳ）ミーティング （Ⅴ）修正、フォローアップ 3. インスペクションデータの分析・評価 4. レビュー促進するには 5. 演習《職場でのレビューの必要性》  詳細はこちら
受講料	66,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	20名
開催予定日	10月21日(木)～10月22日(金)
開講決定日	10月7日(木)

SS2 ソフトウェアテスト設計のための、テスト技法の基本 システム開発におけるテスト技法(2日間)	
特 徴	ソフトウェアテストシンポジウム（JaSST）やテスト設計コンテストを主催・運営する特定非営利活動法人（NPO法人）ソフトウェアテスト技術振興協会（ASTER）がコーステキスト構築と研修実施を担当する「テストエンジニア研修コース」である。 ・代表的なテスト設計技法を習得できる。
目 標	・対象ソフトウェアの特性に応じた効果的なテストを実施するための、テスト設計のポイントを学ぶ。 ・ソフトウェアテストの意図、切り口、実施時期、内容を適切に設計できるようになることを目標とする。
対象者	・ITSS ソフトウェアデベロップメント レベル1～3（または4） ・ETSS テストエンジニアレベル 1～3（または4） ともに、ソフトウェアテスト設計技法を体系的に学びたい方
前提知識	・IT関連または組込みの開発・保守業務に携わっていて、テスト実施経験はあるが、体系的にテスト設計を学んだことがない初級～中級レベルの技術者を想定する。 ・プログラムを作成するスキルの有無は問わないが、演習の中で簡単なプログラムを読んでいただく。また、2進数といったコンピュータサイエンスの基礎知識が必要である。
内 容	[1日目] 1. テストの目的とソフトウェア開発の現状 2. テストの全体像とテスト運営 3. テスト設計（講義、演習） 4. テスト技法 同値クラス・境界値テスト（演習）・制御パステスト（演習）・データフローパステスト デシジョンテーブルテスト（演習） [2日目] 1. テスト技法の続き 状態遷移テスト（演習）・全ペアテスト（演習）・ ユースケーステスト・システムテスト シナリオテスト・性能テスト・負荷テスト・回帰テスト・ 経験ベースのテスト技法 2. 不具合管理（演習）  詳細はこちら
受講料	66,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	16名
開催予定日	8月11日(水)～8月12日(木)
開講決定日	7月28日(水)

SS3 顧客に無くてはならない存在になる！(顧客価値を提供し、顧客満足を得る) 成功するプロジェクトのための要求引出しと要求分析(2日間)	
特 徴	・顧客価値を実現する要求を引き出しムダのないプロジェクト運営を実現する講座である。 ・顧客との信頼関係を築き、無くてはならない存在となるよう、ビジネスアナリシスのスキルを参考にする。 ・グループ討議と演習に時間を割く参加型の研修である。 ・PMI®のATP発行の14 PDU（2020年までのSS3とは異なるコースIDを予定）を取得できる。
目 標	・要求のレベルと備えるべき品質を理解し、ムダを省けるようになる。 ・プロジェクトを安定させ顧客の期待をマネジメントできるようになる。 ・真のニーズを引き出す方法を演習により形式知・暗黙知として理解する。
対象者	・要求取扱い能力を高めムダのないプロジェクト運営を実現したい方（営業担当者も可） ・顧客に真の価値を提供しプロジェクトを成功に導きたい方
前提知識	要求引出しや分析の経験があること
内 容	[1日目] 1. オリエンテーション 2. 要求上の問題点 ・どのような問題が発生しているか（討論と振り返りを通しての理解） ・要求問題の原因を分析する ・要求のレベルを捉え、備えるべき品質を考える 3. 課題解決の論理的アプローチ（討論と振り返りを通しての理解） ・真のニーズを引き出すための質問方法とアプローチ方法を考える [2日目] 1. 顧客課題解決演習 ・情報収集と整理、外部環境／内部環境を整理する ・情報分析、SWOT／ビジネスモデル・キャンパスを作成する ・解決策（戦略）を策定する 2. 振り返りとまとめ  詳細はこちら
受講料	61,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	16名
開催予定日	8月19日(木)～8月20日(金)
開講決定日	8月5日(木)

SS4 アジャイル領域へのスキル変革 SCRUMによるソフトウェア開発とツールの活用実践(2日間)	
特 徴	・研修成果を出すために自ら考え行動・判断する参加型研修である。 ・演習を通してSCRUMの進め方とツールの活用方法を習得する。 ・演習では、疑似プロジェクトを進めながらスクラムにおける役割とスクラムのポイントを理解できる。 ・PMI®のATP発行の14 PDU（2020年までのSS4とは異なります）を取得できる。
目 標	・アジャイル領域へのスキル変革を実現するマインドセットや原則を理解する ・アジャイル開発におけるSCRUMの概要を理解する ・アジャイル開発に必要なツールの活用方法についてヒントを得る
対象者	・SCRUMの基本を理解したい方 ・アジャイル開発に参加予定の方
前提知識	プロジェクト参加経験が1年以上の方（アジャイル開発の経験有無は問わない）
内 容	[1日目] 1. なぜアジャイルが必要か（グループ討議） 2. アジャイルソフトウェア開発宣言の読み解き ・行動規範の理解 3. SCRUM概要 ・基本用語 ・開発のプロセス ・開発の進め方 ・役割の理解 [2日目] 1. Redmineの活用方法 ・バックログの登録 ・スプリントの登録 ・タスクとチケットの管理 ・チケットの操作 2. SCRUM演習（Redmineを用いて） ・自己組織的なチームを作るための規律・ルールを作成 ・ユーザーストーリー、プロダクトバックログの作成 ・スプリントプランニング・スプリントレトロスペクティブ（ふりかえり）まで ・チケットおよび「かんばん」による進捗管理  詳細はこちら
受講料	61,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	16名
開催予定日	2022年2月17日(木)～2月18日(金)
開講決定日	2022年2月3日(木)

◆ プロジェクトマネージャ育成コース

【研修概要】

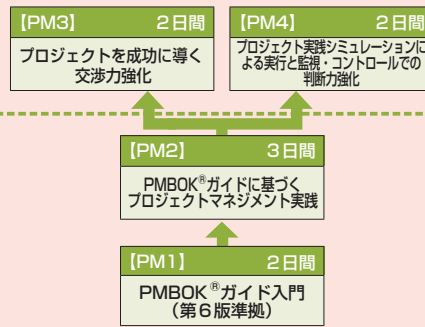
本コースで目標とする人材像は、組込み系及びエンタープライズ系の技術者育成に共通する中小規模のシステム開発プロジェクトをマネジメントする上で、必要な原則を理解し自らのキャリアを活用し、業務上の課題解決をリードできる人材です。また、すべての講座は、PMI®(プロジェクトマネジメント協会)のPDU対象予定の講座です。PMP®資格維持のためのPDU、又はPMP®資格試験受験のための事前学習時間を取得することができます。

【コース体系】

(レベル)
L4
経験の知識化と応用ができる

L3

単独で仕事をこなせる



PM1	【情報処理試験にも役立つ】リーダーやPMとなるための基礎用語・基礎知識を習得する！ PMBOK®ガイド入門(第6版準拠)(2日間)
特 徴	- 基礎知識・基礎用語だけでなく、気付きや納得も得られる。 - 要所要所で振り返りの理解度確認を行い、基礎知識・用語の定着を図る。 - 単なる理解に留まることのないよう、マインド(当事者意識)の定着にも焦点を当てる。 - 情報処理試験におけるプロジェクト関連の知識も得られる。 PMBOK®ガイド 第7版の予定についても触れる。 - PMI®のATP発行の14 PDUを取得できる。
目 標	PMBOK®ガイド が示すフレームワークと知識エリアを学習し、ガイドの位置付けを理解する。 - PMの基礎用語・知識を習得する。
対象者	- プロジェクトマネージャあるいはプロジェクトリーダーとしてプロジェクトマネジメントを行おうとする方、あるいは知識を整理したい方 - プロジェクトメンバとしてプロジェクトの運営に貢献しようとする方
前提知識	下記の条件をいずれも満たすこと ・情報システムの開発プロジェクトに参加経験があること ・システム開発に関するごく一般的な基礎知識を持っていること (知識または経験が不足していると自覚される場合は、『世界一わかりやすいプロジェクトマネジメント』等の参考図書を通読されること)
内 容	【1日目】 - プロジェクトマネジメントとは PMBOK®ガイド とは、標準と実務ガイドの違い - プロジェクトの運営環境、プロジェクト・マネジャーの役割 - 統合マネジメントの目的、ポイントと用語 - スコープ・マネジメントの目的、ポイントと用語 - スケジュール・マネジメントの目的、ポイントと用語 【2日目】 - コスト・マネジメントの目的、ポイントと用語 - 品質マネジメントの目的、ポイントと用語 - 資源マネジメントの目的、ポイントと用語 - コミュニケーション・マネジメントの目的、ポイントと用語 - リスク・マネジメントの目的、ポイントと用語 - 調達マネジメントの目的、ポイントと用語 - ステークホルダー・マネジメントの目的、ポイントと用語 数章ごとに理解度確認問題を実施し、振り返りを行う。
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	9月13日(月)～9月14日(火)
開講決定日	8月30日(月)

PM2	プロジェクトの立上げから終結フェーズの実践的見直し PMBOK®ガイドに基づくプロジェクトマネジメント実践(3日間)
特 徴	- プロジェクトを失敗・問題点・ムダという切り口で振り返る。 - 立上げフェーズから終結フェーズまで、実務レベルでの学習ができ、気付きも得られる。 - プロジェクトマネージャのヒューマンスキル部分も扱う。 - アクティブ・ラーニングの形式で進行する。 - PMI®のATP発行の21 PDU (2020年までのPM2とは異なるコースID) を取得できる。
目 標	- プロジェクトの問題発生を防ぎかつ顕在化した問題に正しく対応できるようになる。 - マネジメントのクセや視野の偏りを補正し、ムダな仕事を削減できるようになる。 - なくてはならないプロジェクトマネージャとして顧客から信頼される存在になる。
対象者	- プロジェクトマネージャ、リーダーあるいはメンバとしてプロジェクトに参加し、プロジェクトの改善に興味のある方 - プロジェクトマネジメントの視野を広げたい、他人と知恵を交換したい方 - 過去に受講された方でも、問題を考えることにより新たな気付きを得たい方
前提知識	【PM1 PMBOK®ガイド 入門】修了者または同等の知識を有する方
内 容	【1日目】 グループ討議中心で進行 - プロジェクトの失敗、失敗事例 - プロジェクトマネジメントでの問題点 - プロジェクトマネジメントでのムダとは - 立上げフェーズの振り返りと検討、意識づけ (RFP、契約、統合) - RFPと要求の質 - 契約段階でのプロジェクト・リスク - 計画・実施フェーズの振り返りと検討、意識づけ 【2日目】 グループ討議中心で進行 - スコープ (特に要求の重要性) の振り返りと検討、意識づけ - コスト・品質の振り返りと検討、意識づけ - その他相互関係のある知識エリア 【3日目】 グループ討議中心で進行 - リスクの振り返りと検討、意識づけ - プロジェクトの失敗原因を分析 - プロジェクトを失敗させるアイデアを考える発想法 - 人はどのようにどのようなミスをするか - プロジェクトのチーム・マネジメント (ヒューマンの部分も扱います) - 全体の振り返りと今後に向けて
受講料	76,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	16名
開催予定日	12月1日(水)～12月3日(金)
開講決定日	11月17日(水)



◆ プロジェクトマネージャ育成コース

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、組込み系及びエンタープライズ系の技術者育成に共通する中小規模のシステム開発プロジェクトをマネジメントする上で、必要な原則を理解し自らのキャリアを活用し、業務上の課題解決をリードできる人材です。また、すべての講座は、PMI®(プロジェクトマネジメント協会)のPDU対象予定の講座です。PMP®資格維持のためのPDU、又はPMP®資格試験受験のための事前学習時間を取得することができます。

【コース体系】

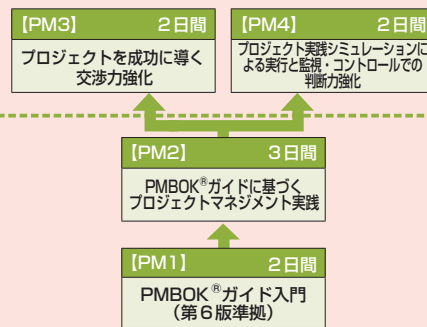
(レベル)

L4

経験の知識化と応用ができる

L3

単独で仕事をこなせる



PM3 交渉で無くてはならない存在になる! プロジェクトを成功に導く交渉力強化 (2日間)	
特 徴	- 個人およびグループ演習のほか、ロールプレイと振り返りにより、気付きを得る研修である。 - プロジェクトにおける交渉のプロセスと重要ポイントをグループ討議により導き出す。 - 交渉を成功させるための準備の重要性を認識し、その内容を導き出す力を鍛える。 - 参加型のラーニング研修である。 - PMI®のATP発行の14 PDU (2020年までのPM3とは異なるコースIDを予定) を取得できる。
目 標	- 安易な合意に満足せず、合意の質を追求する習慣をつける。 - 交渉をプロジェクトと考え、交渉のプロセスをマネジメントできるようになる。 - プロジェクトのムダを発生させない交渉力をつける。
対象者	- 交渉力を高め、無くてはならない存在になりたい方 - 交渉を通してプロジェクトをリードし、顧客価値の実現に貢献しなければならない立場の方 - 交渉を苦手としているが、苦手意識を克服したい方
前提知識	・特になし。
内 容	【1日目】 - オリエンテーション - ビジネス交渉とは - IT実務ケースを題材に合意の質を追求する (準備段階) - IT実務ケースを題材に合意の質を追求する (実行段階) 【2日目】 - IT実務ケースでのロールプレイ実施 - ロールプレイの振り返り - 振り返りを踏まえた2回目ロールプレイ実施 - 振り返り - 汚い手などへの対応 - 今後に向けての個人としての課題の洗い出し
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	16名
開催予定日	12月8日(水)～12月9日(木)
開講決定日	11月24日(水)



詳細はこちら

PM4 意思決定がプロジェクトを左右する! PMとしてどう判断するか? プロジェクト実践シミュレーションによる実行と監視・コントロールでの判断力強化(2日間)	
特 徴	- 臨場感溢れたプロジェクト・シミュレーションにより、総合的なPMとしての判断力・統率力を高める (シミュレーション・ソフトウェアはONTRACKを使用)。 「計画時」だけでなく、「実行時」のチーム・ビルディングおよび進捗管理について、実践的に学習できる。 - 研修でしか許されない「失敗」(および「成功」)を振り返ることで、失敗からの学びができる (現場に置き換えて考えることにより、気付きの質を高める)。 - PMI®のATP発行の14 PDU (2020年までのPM4とは異なるコースIDを予定) を取得できる。
目 標	- 振り返りレポートの作成を通し、顕在化した問題の原因分析力の質を高める。 - プロジェクトに負の影響を与える自身の傾向を認識し、改善の指針を得る。 - プロジェクト状況に対して下す判断の基準を持てるようになる。
対象者	- 体験シミュレーションによってプロジェクトマネジメント力を強化したいプロジェクトマネージャまたはリーダー - 失敗からの気付きを得たいプロジェクトマネージャまたはリーダー (それぞれ候補者を含む)
前提知識	下記のいずれかを満たすこと 「PMBOK®ガイド 入門」を受講済みか同等の知識があること - 小規模でもよいので、マネジメントあるいはリーダーの経験があること
内 容	【1日目】 - オリエンテーション - PM知識の整理 - リソース割当ておよびコミュニケーション等の計画 - シミュレーション・プロジェクトの実行 (前半) - 前半の結果の整理と報告 【2日目】 - 前半での決定事項等の振り返り - 振り返りに基づく後半の再計画 - シミュレーション・プロジェクトの実行 (後半～完了) - 後半の結果の整理と報告 - 後半での決定事項等の振り返り - 全体の振り返りと整理
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	16名
開催予定日	2022年1月20日(木)～1月21日(金)
開講決定日	2022年1月6日(木)



詳細はこちら

● 昨年度の受講者の声

- ・基礎をしっかりと学ぶことができました。
- ・コロナ禍での開催、ありがとうございました。発声でのコミュニケーションやZoomの操作等、一部難しい部分もありましたが、PMBOKの全景に関し、非常に理解が進みました。ありがとうございました。
- ・初めてZoomを使った研修を受講しました。こういう形式の研修もありかなと思いました。
- ・感染症対策などしっかり行われており、安心して受講することができました。



◆ ICT スペシャリスト育成コース 《ネットワーク標準コース》

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、中小規模のネットワークシステムにおいてベースとなる技術を用いたネットワークの設計・構築・運用ができ、ユビキタス社会でのネットワーク敷設や、業務上の課題解決をリードできる人材です。最新のネットワーク技術の動向を学びと共に、ネットワークシステムの基本であるスイッチ、ルータ、VPNの技術を基盤に、設計・構築・運用に必要な知識や技術を習得します。

【コース体系】

(レベル)

L3

単独で仕事をこなせる

[IT3] 3日間
ネットワーク設計・構築
トレーニング

[IT4] 2日間
ネットワーク運用管理
トラブルシューティング

[IT2] 3日間
ネットワーク構築実習 (基礎編)

L2

上位者の指導のもとに
作業ができる

[IT1] 3日間
ネットワークシステム
基礎トレーニング

IT1	ネットワークシステムをマイクロ視点・マクロ視点で理解する ネットワークシステム基礎トレーニング(3日間)
特 徴	「クライアント」・「LAN・WAN/インターネット」・「セキュリティ」・「サーバ/アプリケーション」の視点で順番にいろいろな機能を確認する。
目 標	・ネットワークシステムの各技術の連携を実感・体感し、システムが複数の技術で成り立っていることを理解できる。 ・ネットワークシステム全体を見渡す視点を持ち、設計、構築、トラブルなどを考えることができる。
対象者	システム構築においてシステム全体的な提案・営業活動等に携わる方
前提知識	・Windows操作ができる方 ・TCP/IPの基礎知識をお持ちの方 ・サーバ/クライアントモデルの通信概要について理解している方(Web, FTP, Telnetなど)
内 容	[1日目] 1. 技術区分【クライアント】…Macアドレス、IPアドレス、ARP、DHCP 2. 技術区分【LAN】…Ethernet、SpeedとDuplex、スイッチング技術、無線LAN、VLAN、802.1q 3. 技術区分【WAN/インターネット】…NAPT 4. 技術区分【セキュリティ】…パケットフィルタリング(ACL) 5. 技術区分【サーバ/アプリケーション】…Webサーバー、Mailサーバー [2日目] 1. 技術区分【クライアント】…ドメイン名、DNS 2. 技術区分【LAN】…スタティックルート、デフォルトルート、ダイナミックルート(RIP) 3. 技術区分【WAN/インターネット】…PPPoE 4. 技術区分【セキュリティ】…ファイアウォール 5. 技術区分【サーバ/アプリケーション】…DNSサーバー [3日目] 1. 技術区分【クライアント】…ブラウザ、HTTP、HTTPS、キャッシュ 2. 技術区分【LAN】…スタック接続、リンクアグリゲーション 3. 技術区分【WAN/インターネット】…VPN 4. 技術区分【セキュリティ】…Proxy(代理機能とキャッシュ) 5. 技術区分【サーバ/アプリケーション】…データベース  詳細はこちら
受講料	112,000円(消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	11月17日(水)～11月19日(金)
開講決定日	11月2日(火)

IT2	最新技術の動向の把握とスイッチ、ルータ、ファイアウォールの操作と構築技術を習得する ネットワーク構築実習(基礎編)(3日間)
特 徴	スイッチ、ルータ、ファイアウォール等の3種類のネットワーク機器を設定、確認できる。
目 標	・L2機器、L3機器、ファイアウォール機器の基本的機能を把握することができる。 ・中小規模におけるネットワーク構築や設計、トラブルシューティングができる。
対象者	・ネットワークの設計/構築業務/運用保守管理に携わる方 ・フロントSEとしてフロント側と技術面の両方に携わる方
前提知識	・IT1「ネットワークシステム基礎トレーニング」を修了もしくは同等知識のある方 ・TCP/IPの基礎(IP、ARP、ICMP、TCP、UDP)を理解している方 ・ネットワーク機器の操作経験のある方
内 容	[1日目] 第1章：LAN構築① エッジの機能 1-1：Link Aggregation 1-2：VLAN 1-3：ループ対策 1-4：EPPSR 1-5：VRF-Lite(デモ) [2日目] 第2章：LAN構築② コアの機能 2-1：ルーティング 2-2：Dynamicルーティング(RIP) 2-3：スタック接続 第3章：インターネット、WANの接続 3-1：PPP over Ethernet 3-2：ファイアウォール [3日目] 第4章：アクセス回線網 4-1：IPv6 4-2：NGN  詳細はこちら
受講料	112,000円(消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	12月7日(火)～12月9日(木)
開講決定日	11月22日(月)

IT3	中小規模のネットワークを完全把握する ～ネットワーク設計から構築まで～ ネットワーク設計・構築トレーニング(3日間)
特 徴	ネットワークの設計に必要なことを学び、演習や実習を通して設計、構築、動作確認を実施する。
目 標	・ユーザニーズを把握し、技術的視点で各設計技法について把握することができるようになる。 ・設計段階で作成した各種ドキュメントを参照し、ネットワークの構築ができるようになる。
対象者	ネットワークの設計/構築業務に携わる方
前提知識	・IT1「ネットワークシステム基礎トレーニング」、IT2「ネットワーク構築実習(基礎編)」を修了もしくは同等知識のある方 ・TCP/IPの基礎(IP、ARP、ICMP、TCP、UDP)を理解している方 ・スイッチ、ルータ、ファイアウォール機器操作の経験がある方
内 容	[1日目] 1. ネットワークシステム設計(物理～論理) 2. ネットワークシステム構築 [2日目] 3. ネットワークシステム運用・保守 4. ネットワーク構築事例 5. ロールプレイングの説明 ロールプレイング(設計、プロトタイプ構築) [3日目] ロールプレイング(プロトタイプ構築(続き)、全体的な動作確認)  詳細はこちら
受講料	114,000円(消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	2022年1月12日(水)～1月14日(金)
開講決定日	12月28日(火)

IT4	運用管理・トラブルシューティング技術を磨く ネットワーク運用管理トラブルシューティング(2日間)
特 徴	実際に起こりうる可能性のあるトラブルを、受講者自身に解決してもらう。
目 標	・OSI参照モデルの各階層において、注意する点を理解することができる。 ・ネットワークトラブルにおいてのアプローチ手法、切り分け技術を身に付けることができる。 ・プロトコルや各種ネットワーク技術の特性により発生するトラブルに対して対処することができる。
対象者	ネットワークの運用保守管理に携わる方
前提知識	・IT1「ネットワークシステム基礎トレーニング」、IT2「ネットワーク構築実習(基礎編)」を修了もしくは同等知識のある方 ・TCP/IPの基礎(IP、ARP、ICMP、TCP、UDP)を理解している方 ・スイッチ、ルータ、ファイアウォール機器操作の経験がある方
内 容	[1日目] 1. ネットワークのライフサイクル 2. ネットワークドキュメント 3. トラブルシューティング手順 4. 問題の切り分け技法 5. 範囲の特定技法 [2日目] 1. 診断ツール 2. L1における障害、トラブル 3. L2における障害、トラブル 4. L3/4における障害、トラブル 5. 上位層における障害  詳細はこちら
受講料	100,000円(消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	2022年2月15日(火)～2月16日(水)
開講決定日	2022年2月1日(火)

◆ ICT スペシャリスト育成コース

プラットフォームLinuxサーバコース/
クラウドサービスコース

【研修概要】

Linuxコースで目標とする人材像は、Linuxシステムにおける設計・構築・運用面で自らのキャリアを活用することによって、独力で業務上の課題解決をリードできる人材です。コース内容は、Linuxサーバを構築・運用していく上で必要となる基盤技術セキュリティ対策の手法を習得します。

クラウドサービスコースで目標とする人材像は、Microsoft365のテナント管理者として必要な管理の基本を習得し、業務上の課題解決をリードできる人材です。Microsoft365とMicrosoft Azureを使った、Active DirectoryとMicrosoft365の認証連携システムを構築するカリキュラムに加え、テレワークにも利用できるVDI (Windows Virtual Desktop) 基盤の構築方法をハンズオントレーニングで習得します。

【コース体系】

(レベル)

L3
単独で仕事をこなせる

[IT6] 3日間
セキュリティ観点からの
Linuxサーバ・システム管理

L2
上位者の指導のもとに
作業ができる

[IT5] 3日間
Linux 基礎と基本概念

[IT7] 3日間
Microsoft365導入と管理

Linuxサーバの運用・保守で知っておきたい “Linuxの仕組みと概念・操作” Linux基礎と基本概念(3日間)	
IT5	
特 徴	- サーバとしての運用・保守を前提に、コマンドラインでの操作実習を行う。 - IT6「セキュリティ観点からのLinuxサーバ・システム管理」で取り扱うセキュリティの基礎として、ファイルシステムとプロセスとの関係に重点をおき、アクセス権限についての基本を習得する。 - 操作面では管理作業が必要となる正規表現を取り扱う。Linuxの基礎講座によくあるコマンドの使い方の研修ではない。
目 標	- Linuxを運用・操作する際の基礎的な仕組みの知識を修得する。 - 日頃のサーバ運用・保守で操作・実行していることの意味が分かるようになる。
対象者	- Linuxサーバを用いたシステムを運用・保守予定の方 - Linuxの運用や保守を担当していて、作業内容の意味や仕組みを理解したい方 - 多少の操作経験があればLinux初心者でも問題ない。
前提知識	以下の二つを満たすこと - コマンドラインの操作経験 (Windowsのコマンドプロンプトでも可) があること - プログラムの基本的な動作原理 (ファイルとプロセスの違い程度で可) を知っていること
内 容	【1日目】 - Linuxとは/ディストリビューションとは - 代表的なコマンドの操作と内部の仕組み - ユーザとグループ - プロセスとは/標準入出力とリダイレクト、パイプ - Linuxのファイルシステムの概要とアクセス権限 - プロセスとファイルシステム 【2日目】 - シェルとは/シェル変数と環境変数 - viの基本的な使い方 - 正規表現の演習 (grepによるパターン抽出) 【3日目】 - 正規表現の演習 (sed等による自動テキスト加工・実行) - プロセスのファイルアクセス権限 - シェルスクリプトとは/シェルスクリプトの動作原理  詳細はこちら
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	7月27日(火)～7月29日(木)
開講決定日	7月13日(火)

Linuxサーバ運用・保守のための基本的な仕組みと考え方 セキュリティ観点からのLinuxサーバ・システム管理 (3日間)	
IT6	
特 徴	- サーバ運用・保守における、主にセキュリティの観点からの基本的な考え方や管理技法等、システム管理者としての基礎知識を学ぶ。 - 仕組みを学習・理解することを狙い、実務でも役立つものとするため、コマンドラインでの操作実習とする。 - Linuxサーバの操作はWindowsマシンから行いますので、通常の管理業務と同じような環境で演習できる。
目 標	- Linuxを運用・操作する際のセキュリティに関する基礎的な仕組みの知識を修得する。 - 日頃のサーバ運用・保守で操作・実行していることの意味が分かるようになる。(2021年度はCentOS 7を主対象とする)
対象者	- Linuxの運用や保守を担当していて、作業内容の意味や仕組みを理解したい方 - Linuxサーバを用いたシステムを運用・保守予定の方
前提知識	- IT5「Linux基礎と基本概念」を修了していること 又は 次の二つを満たすこと - Linuxファイルシステムのrwxの概念、およびプロセスとファイルシステムとの関連について、ある程度理解できていること - Vimで、数行程度のファイル編集ができること
内 容	【1日目】 - ユーザ管理/グループ管理 - 共有ディレクトリの管理 - ファイルシステムのマウント 【2日目】 - サービスの起動/停止、有効/無効 - コマンドの定期実行 - ログ管理 - SSH 【3日目】 - ネットワーク設定概要 - ファイアウォール設定 (サービスに対する設定、ネットワークに対する設定) - その他のセキュリティ (侵入の手口など)  詳細はこちら
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	2022年1月26日(水)～1月28日(金)
開講決定日	2022年1月12日(水)

フルクラウドで実現！Active DirectoryとMicrosoft 365を連携させたテレワーク環境の構築 Microsoft365導入と管理 (3日間)	
IT7	
特 徴	- Microsoft365の基礎を理解することができる。 - ActiveDirectoryとMicrosoft365のID連携を実習できる。 - Windows Virtual Desktopの構築を実習できる。
目 標	- Microsoft 365の導入と運用管理の基礎を習得する。 - Active Directoryの構築とMicrosoft365とのID連携を習得する。 - Windows Virtual Desktopを構築して、テレワーク環境の構築手順を習得する。
対象者	- Microsoft 365の導入を予定されている方 - テレワーク環境の構築を検討されている方 - Microsoft365の運用管理をご担当されている方
前提知識	Windows Server や Windows10の基礎知識・操作経験のある方
内 容	【1日目】 - Microsoft365の概要 - Microsoft365のライセンス - Microsoft365の導入 - Microsoft365の運用管理 【2日目】 - Active Directoryの概要 - Active Directoryの構築 - Active DirectoryとAzureADとの連携 - AADConnectの導入とID連携 【3日目】 - Windows Virtual Desktop (WVD) の概要 - WVDの前提条件 - WVDの構築 - WVDの運用管理  詳細はこちら
受講料	91,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	12月15日(水)～12月17日(金)
開講決定日	12月1日(水)

◆ アプリケーションスペシャリスト育成コース〈オブジェクト指向コース〉

【研修概要】

現在の開発の現場ではオブジェクト指向開発が求められています。特に、モバイル開発ではオブジェクト指向の理解は必須となっているものの技術者が追いついていない現実があり、赤字やユーザーニーズを満たせないプロジェクトが多発しています。

本コースで目標とする人材像は、オブジェクト指向を用いたシステムの設計・構築において、自らのキャリアを活用することによって、業務上の課題発見や解決をリードできる人材です。オブジェクト指向開発における設計・実装フェーズに関して、その概念と手法に関する実践的なスキルを原理の理解や体験を通して身に付けます。

【コース体系】

(レベル)

L4 経験の知識化と応用ができる

L3 単独で仕事をこなせる

L2 上位者の指導のもとに作業ができる

【AP2】 3日間
実践的オブジェクト指向設計・実装とリファクタリング (C#編)

【AP1】 3日間
オブジェクト指向の理解とC#での実現

【AP3】 3日間
Javaプログラミングで学ぶオブジェクト指向とその応用

AP1 リモートワークの今、オブジェクト指向の考え方を理解して独力でC#を使う！ オブジェクト指向の理解とC#での実現 (3日間)	
特 徴	・How-Toではなく、Why/Whatの視点によりオブジェクト指向の考え方・捉え方を学ぶ。 ・オブジェクト指向の概念要素とC#の言語要素との対応付けを理解する。([C#の入門講座]ではない) ・AP2「実践的オブジェクト指向設計・実装とリファクタリング (C#編)」の前段に位置する内容の講座である。
目 標	・「なぜそうなのか」「なぜそうするのか」を考えた実装ができるようになる。 ・オブジェクト指向設計の主旨を理解して、C#での実装ができるようになる。 ・言われるままに書いていたコードの意味が理解できるようになる。
対象者	・C#での開発に従事されている方で、C#とオブジェクト指向とを突き合わせて理解したい方 ・C#の基本文法については既知であり、C#でこれから開発を行うまたは行っている方 ・表面的な文法を学ぶということではなく、「なぜ／どうして」という観点から学習したい方
前提知識	以下のいずれかを満たすこと ・C#での変数宣言や制御構造などの基本文法を知っていて、簡単なプログラムを作成できること ・C#、Java、またはC++での開発経験があること
内 容	【1日目】 1. .NET Framework と C# 2. オブジェクト指向概論-1 (クラスとインスタンス) 3. クラスと型、フィールド/メソッド/プロパティ 4. インスタンスの生成と初期化、newとは何か 【2日目】 1. staticの意味と関連するもの 2. オブジェクト指向概論-2 (クラス間の関係) 3. 継承とオーバーライド、抽象メソッドと抽象クラス 4. 継承と委譲、そのメリットとデメリット、継承から委譲への変換 【3日目】 1. 構造化例外処理 2. インターフェイス、インターフェイスはなぜ必要なのか 3. デリゲートとイベント  詳細はこちら
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	7月13日(火)～7月15日(木)
開講決定日	6月29日(火)

AP2 仕様変更・仕様追加等によって、メンテ不能になるようなコードとの訣別！ 実践的オブジェクト指向設計・実装とリファクタリング (C#編) (3日間)	
特 徴	・オブジェクト指向の要素を組み合わせて設計・実装する考え方、方法を学ぶ。 ・事例を題材としてオブジェクト指向的設計を考え、リファクタリングによる保守性向上を目指す。 ・また、アジャイル開発での漸進型のソフトウェア開発にも役立つ。 ・インターフェイスや継承等を効果的に活用する考え方を理解し、実践力を養う。
目 標	・設計の意図を理解した実装ができるようになる。 ・保守性を考慮した設計・リファクタリングができるようになる。
対象者	・オブジェクト指向の実践的な設計・実装を学び、保守性を考慮した設計や実装あるいはリファクタリングを行いたい方 ・仕様追加・仕様変更等の結果、「よく似たソースコードが沢山できてしまった」あるいは「if文で違いを切り分けた箇所が大量にある」などにより、その後の保守が大変になってしまったことに疑問を持っている方
前提知識	以下の二つを共に満たすこと ・オブジェクト指向の基本的な知識 (AP1「オブジェクト指向の理解とC#での実現」修了程度) を持っていること ・継承やインターフェイス等を用いた、基本的なオブジェクト指向プログラミングを書くことができること
内 容	【1日目】 1. オブジェクト指向とC# 2. 再利用性に対する手始めの課題と検討 (継承、委譲、インターフェイスを使う) 3. オブジェクト指向設計の原則とは 4. 安定と不安定とを切り分けて保守性を上げる 【2日目】 1. イテレータとC#のコレクションフレームワーク 2. クラスを責務で分離し、安定同士で結合することにより保守性を上げる 3. オブザーバとC#のイベントモデル 【3日目】 1. フレームワークの抽象化を行う 2. 構造と振舞いを分離する  詳細はこちら
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	8月24日(火)～8月26日(木)
開講決定日	8月10日(火)

「どう書くか」ではなく「どう考えるか」を身に付ける！ Javaプログラミングで学ぶオブジェクト指向とその応用 (3日間)	
特 徴	・How-Toではなく、Why/Whatの視点によりオブジェクト指向の考え方・捉え方を学ぶ。 ・オブジェクト指向の概念とJava言語との対応付けを理解する ([「Javaの入門講座」ではない])
目 標	・オブジェクト指向に基づく設計の意図を理解し、Javaでの実装ができるようになる。 ・「言われたまま」に書いていたコードの意味を理解し、なぜ「そうなるのか」、「そうするのか」を考えられるようになる。
対象者	・Javaの基本文法は既知であり、これからJavaで開発を行う/行っている方 ・Javaとオブジェクト指向とを突き合わせて理解したい方
前提知識	次のいずれかを満たすこと ・Javaでの変数宣言や制御構文などの基本文法を知っていて、簡単なプログラムを作成できること ・JavaまたはC#での開発経験があること
内 容	【1日目】 1. Javaとは 2. オブジェクト指向概論-1 (クラスとインスタンス) 3. クラスと型、フィールド/メソッド 4. インスタンスの生成と初期化、newとは何か 【2日目】 1. staticの意味と関連するもの 2. オブジェクト指向概論-2 (クラス間の関係) 3. 継承とオーバーライド、抽象メソッドと抽象クラス 4. 継承と委譲、そのメリットとデメリット、継承から委譲への変換 【3日目】 1. 構造化例外処理 2. インターフェイス、インターフェイスはなぜ必要なのか 3. 匿名クラス、ラムダ式、Stream  詳細はこちら
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定 員	15名
開催予定日	8月4日(水)～8月6日(金)
開講決定日	7月21日(水)

◆ アプリケーションスペシャリスト育成コース (Webアプリケーション開発コース/モバイルアプリ開発コース)

【研修概要】

Webアプリケーション開発コースで目標とする人材像は、昨今、サイバーセキュリティ対策が重要視されている中、Webアプリケーションを開発・運用するために必要となる情報セキュリティ対策の知識を習得し、より安全なシステム構築を行える人材です。

モバイルアプリ開発コースで目標とする人材像は、スマホ・タブレットの機能を活用するアプリの開発ニーズが増加する中で、基本的な原理原則を学び、実務としてのモバイルアプリ開発力を身に付けた人材です。

【コース体系】

(レベル)

L3
単独で仕事を
こなせる

【AP4】	2日間
Webアプリケーション開発のための情報セキュリティ対策	

【AP5】	3日間
JavaによるAndroidアプリ開発入門	

AP4 知らずにつくと怖いWebアプリケーション Webアプリケーション開発のための情報セキュリティ対策(2日間)	
特 徴	- Webアプリケーションシステムの脆弱性が原因で発生するWebページの改ざん、情報漏えい、利用者に被害が及ぶ攻撃を実機を通して体験的に学習する。 - グループディスカッションで問題対策技術を話し合うことにより、必要なWeb技術をより深く理解する。
目 標	- セキュリティを意識した上流設計ができるようになる - Webアプリケーションのセキュリティコーディングができるようになる - Webシステムのセキュリティ設定、運用ができるようになる
対象者	Webアプリケーション設計者/開発者/SE
前提知識	ネットワークに関する基本的な知識を有して、Webアプリケーション開発（Java、PHP等）の経験があること
内 容	【1日目】 1. Web技術基礎 【講義/演習】 2. Webアプリケーションに関連する攻撃 3. Webサーバのセキュリティ設定 4. SSL (Secure Sockets Layer) 【2日目】 1. Webで利用されるアクセス制限 2. DNSサーバのセキュリティ 3. プロキシサーバ 4. データベース 5. セキュリティ運用  詳細はこちら
受講料	61,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	11月11日(木)～11月12日(金)
開講決定日	10月28日(木)

AP5 「とりえず動く」アプリ開発から脱却!「創りたい」アプリを設計・開発するために JavaによるAndroidアプリ開発入門(3日間)	
特 徴	- 端末開発メーカーに技術支援を行っている現役エンジニアが講師を担当する。 - 市販テキストや一般の研修では見落とされがちな Why/What の視点でAndroidの仕組みを解説し、演習で体験的に確認してもらう。 - 開発者と発注者のそれぞれの観点から「Android」を解説する。
目 標	- Androidの基本的なコンポーネントを使ったアプリケーションを独力で作成できるようになる。 「おまじない」で終わらない、「どうするべきか」を自分で考え対応するための基礎力を身に付ける。
対象者	- Javaの知識を活かしてAndroidアプリケーションを開発・保守する予定の方 - Androidの動作の仕組みを学習したい方 - Androidで「できること/できないこと」を学習したい方
前提知識	- 継承とインターフェイスの考え方を理解している/Javaで記述できること - 簡単なJavaアプリケーションの作成経験があること ※特に、インターフェイスや匿名クラスについて書き方・動作を理解していること
内 容	【1日目】 1. モバイルOS/開発環境の種類とそれぞれの位置付け 2. Androidアプリケーション開発の基礎 (Androidの概要と開発環境) 3. Androidの画面 (Activity、View、Layout) 【2日目】 1. 画面遷移とデータの受け渡し (Intent) 2. バックグラウンド処理と通知 (Service、BroadcastReceiver) 【3日目】 1. 基本要素を用いた総合演習 2. 一歩踏み込んだAndroidアプリケーションのために必要なこと (パーミッションとセキュリティ) 3. 端末の機能を利用する (位置情報機能の利用)  詳細はこちら
受講料	66,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	10月27日(水)～10月29日(金)
開講決定日	10月13日(水)

● 昨年度の受講者の声

- ・ Webアプリケーションを支える技術の話から始まり、実際に脆弱性を持ったWebアプリケーションに対する攻撃の実演など、とても理解しやすい講習の内容になっていたと思います。
- ・ 自分の本業は開発よりもプログラムの確認やチェックが主な業務ですが、自分の業務に活かせる知識が身についたと思います。
- ・ Webアプリケーションの脆弱性を作り込まない、脆弱性を見つける業務のために役立つ能力が身についたと思います。
- ・ テキスト、および講師の方の話し方ともに分かりやすく、理解しやすかったです。
- ・ 現在の技術動向や最新のトレンドなども盛り込まれており、とても参考になりました。
- ・ 実際にWebアプリケーションを使用した実演など、実践的な知識のある講師の方だと思いました。



◆ ヒューマンスキルコース

【研修概要】

本コースでは、プロジェクトリーダーには必須となるドキュメンテーション力、段取り力、といったヒューマンスキルを理論と実践を通じて身に付けます。

【コース体系】 (レベル)

L3
単独で仕事を
こなせる

【HS1】 2日間
IT技術者のための
ドキュメンテーション

【HS2】 3日間
失敗しない
プロジェクトのための
段取り力と先読み力

HS1	的確な意思疎通のための文書作成技術 IT技術者のためのドキュメンテーション(2日間)
特 徴	・ 誤解しやすい表現、曖昧な表現を座学により学習する。 ・ 事例に従い、ドキュメンテーションの作成を個人ワーク、グループワークにより実施する。 ・ 講師やグループメンバーからのフィードバックを受け、自分の文章の癖を把握する。
目 標	・ IT技術者に必要不可欠な文書表現、文章作成のスキル等を理論と実践を通じて身に付ける。 ・ 技術ドキュメントとして過不足なく適切な情報量を盛り込むことができるようになる。 ・ 誤解のないシンプルで分かりやすい文章表現ができるようになる。 ・ 読み手を意識して適切な用語を使い、わかりやすい構成の文章を作成することができるようになる。
対象者	入社3年目以内程度の若手IT技術者で、業務上、文章を使ったコミュニケーション能力を必要としている方
前提知識	パソコンの基本操作、特に文章作成ツール(WordもしくはExcel)の操作ができる知識をお持ちであること
内 容	【1日目】 0. オリエンテーション 1. IT業界のドキュメントの大切さ 2. ドキュメント作成の手順 3. ドキュメンテーション演習(情報の整理と論理構成) 4. 文章表現 5. ドキュメンテーション演習(提案書作成) 【2日目】 1. ドキュメンテーション演習(提案書作成) 2. 文章作成のポイント(報告書、議事録、メール)
受講料	50,000円(消費税10%・教材費込み)
定 員	16名
開催予定日	8月30日(月)～8月31日(火)
開講決定日	8月16日(月)



詳細はこちら

HS2	成功現場は「段取り8分、実行2分」、定量管理で先を読み！ 失敗しないプロジェクトのための段取り力と先読み力(3日間)
特 徴	・ 事例に極めて近いケースを用い、カードやサイコロなどを使いゲーム形式で楽しく学んでいただける内容である。 ・ 研修参加者には、ファシリテーター役を担っていただくことで、各種会議のとりまとめ役を担う力を身につける。
目 標	・ プロジェクト計画が独力で立てられる。 ・ プロジェクト管理のEVM分析の各種数値の意味が分かる。 ・ ITプロジェクト特有のリスクとその対策方法が分かる。
対象者	現在ITプロジェクトにメンバー又はマネージャとして携わっている方、今後予定されている方
前提知識	最低限、システム開発プロジェクトのWBSを見たことがある方
内 容	【1日目】 ◎オリエンテーション 1. プロジェクトマネジメントとは？【講義】 2. 日本人の得意な段取りについて【講義】 3. PMBOK第6版の解説【講義／演習】 4. プロジェクトの目的と目標【講義／演習】 5. 段階樹詳細化について【講義／演習】 6. 役割分担表の役割【講義／演習】 7. ネットワーク図【講義／演習】 【2日目】 1. EVMによるコントロール【講義／演習】 2. リスクマネジメントとは？【講義／演習】 3. リスク・マネジメントゲーム【演習】 【3日目】 1. ケース演習①【演習】 2. ケース演習②【演習】 3. リスク管理表を持ち帰る 4. 個人で、今日からできる段取り力・先読み力向上のための「5つの習慣」【講義】
受講料	66,000円(消費税10%・教材費込み)
定 員	16名
開催予定日	10月5日(火)～10月7日(木)
開講決定日	9月21日(火)



詳細はこちら

● 昨年度の受講者の声

・ のちに上司から教わったが、入社2-3年目を対象としていたようで、自分にはわかっていたことの方が多かったが復習になった。日本語表現の曖昧な点や使い分けを再確認できたのは良かった。

(受講動機の一部を紹介)

- ・ 文章を作成することに苦手意識があったため。
- ・ 会社で受講がすでに決まっていたため。文章力の向上を目指していたため。
- ・ 関連会社の方とよくメールでのやり取りをしますので、文章力向上のために受講しました。



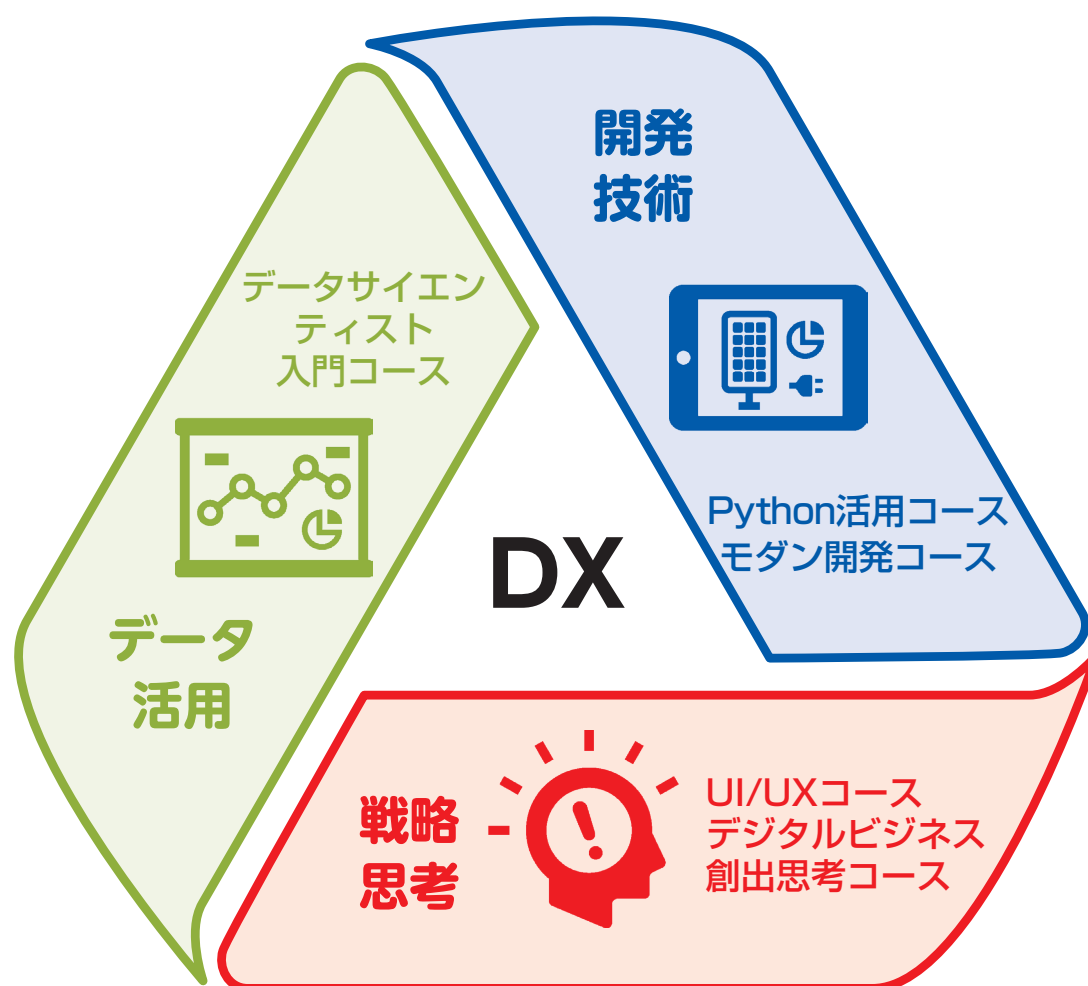
◆ デジタルトランスフォーメーション(DX)時代 人材育成研修のご紹介

近年、様々な業種においてデジタル化が進められており、また、デジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む企業も出てきています。

DXは、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」とされています。（引用：経済産業省の定義）

つまり、今後、企業が競争優位性を確保するためには、データ活用やデジタル技術の活用だけではなく、製品やサービスの変革や企業そのものが変革する視点が重要となります。

このようなDXを実現するための“デジタル人材”の不足が大きな問題となっています。



NICOの“高度IT人材育成研修”では、2017年度からデータ活用技術やデジタルビジネス思考を理解する人材の育成を開始しています。これに加え、IoT導入による現場の見える化などに有効である短期間で開発を行うモダン開発や、ユーザーインターフェース（UI）やユーザーエクスペリエンス（UX）を体験する新たな講座も開設いたします。

ITベンダーや情報システム部門などエンジニアはもちろん、これからDXに取り組もうとするユーザー企業（製造業など）の担当者の人材育成にご活用ください！！

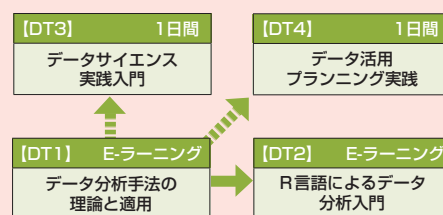
◆ データサイエンティスト入門コース

DT3
DT4 開講決定
1ヶ月前

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、自社内や社外の様々なデータ（ビッグデータ）を活用し、適切な意思決定を支えるデータ活用人材です。過去の分析プロジェクトのノウハウが詰まった独自のケーススタディを体験し、問題設定から報告、提案等に至るプロセスを演習で体験するなど、より実践的な内容で構成されており、分析担当者になった想定での分析、提案、プレゼンテーションを体験したり、受講後に自社で実践する実力を身に付けていただける効果的な講座です。

【コース体系】



DT1	データ分析手法の理論と適用（E-ラーニング）
特 徴	- データ分析の理論や作業スキルに加え、各分析手法を適用する際の考え方も学習する。 - データを手に入れてからレポートするまでの一連の思考と作業を、Excelを利用した演習を通して学習する。
目 標	- 分析の目的と仮説を分析手法適用のインプットに反映できる。 - 分析結果から意味を抽出し、提案や企画に活かすことができる。 - 統計における各種数式の意味が理解できる。 - Excelを用いて効率よく分析ができる。
対象者	- データ分析におけるExcel活用を学びたい方 - Excel操作に留まらず、データ分析の考え方のポイントを知りたい方 「データ分析手法の理論と適用」（日立アカデミー）コースをじっくり再学習したい、集合コースを受ける前に基礎知識を身につけておきたい方 - じっくり自分のペースで学習したい方
前提知識	- Excelの基本的な操作経験があること 「ロジカルシンキング基礎－論理の可視化と論理チェックのポイント－」（日立アカデミー）コースを修了しているか又は同等の知識があること
内 容	- はじめに - データ分析手法の分類 - QC手法の適用 - 多変量解析の適用 - 確率と検定の適用 - そして実務へ  詳細はこちら
受講料	34,485円（消費税10%・教材費込み）
定 員	—
開催予定日	随時（平均学習時間：16時間） 2021年5月～2022年1月
開講決定日	—

DT2	R言語によるデータ分析入門（E-ラーニング）
特 徴	- ビッグデータを含め、様々なデータを分析し活用するためのオープンソースの統計解析パッケージ「R」の使い方を学ぶ。 - データの特徴を知り、ビジネスに活用するために必要な統計学と、コンピュータで容易に統計を行うためのRの使い方を効率的に習得できる。
目 標	- R言語の概要、基本的な使用法を理解する。 - 統計学の基本的な知識を学び、データの特徴を適切に表現できる。 - データに適用する統計手法を適切に判断し、R言語で分析できる。
対象者	ビッグデータを含む「データ」を分析しビジネスに活用したい方
前提知識	コンピュータの基本操作ができること
内 容	- ビジネスとデータ分析 - R言語の基本 - 基本統計量 - Rのグラフィック機能 - 推測統計の基本  詳細はこちら
受講料	10,240円（消費税10%・教材費込み）
定 員	—
開催予定日	随時（平均学習時間：6時間） 2021年5月～2022年1月
開講決定日	—

DT3	すべてのビジネスパーソンのためのエントリー講座 データサイエンス実践入門（1日間）
特 徴	ビジネス現場におけるデータの見方や特徴のとらえ方のコツといった統計／分析ノウハウなどの全体観を養う。
目 標	- データの見方や特徴の捉え方のコツを身に付ける。 - Excelを用いたデータ分析手法の基礎を身に付ける。 - データサイエンスを活用してビジネス課題や様々な問題を解決するイメージを掴む。
対象者	これからデータ分析をビジネスに活用していきたい方
前提知識	Excelの関数とピボットテーブルの利用経験
内 容	【1日目】 - データサイエンス概論 - データ分析のフレームワーク - 集計と可視化からはじめるデータ分析 （グループワーク）レシートデータの分析に基づく、売上向上施策の提案演習 - 成果発表  詳細はこちら
受講料	112,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	10月1日（金）
開講決定日	9月1日（水）

DT4	ビジネス現場におけるデータ活用推進者を育成します データ活用プランニング実践（1日間）
特 徴	AI技術やデータサイエンス領域の幅広い知識を持ち、ビジネス現場の課題解決を先頭に立って推進するための力を身に付ける。
目 標	- AI技術について、周囲のステークホルダーからの質問に答えるために必要な知識を持つ。 - 実際のAI活用業務に必要な要件を理解し、技術者と導入・運用時に合意を図ることができる。
対象者	AIの現状や基本知識を得たい方 AI技術を現場で積極的に活用したい事業部門の担当者
前提知識	Excel や PowerPoint の基礎スキル
内 容	【1日目】 - データ活用プランニングとは - AIと機械学習の基礎概念 - データ活用のフレームワーク - AI・機械学習プロジェクトにおける注意点 （グループワーク）企画ワークショップ - 成果発表  詳細はこちら
受講料	112,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	11月26日（金）
開講決定日	10月26日（火）

Python活用コース

【研修概要】

Python（パイソン）は、コードが比較的シンプルで扱いやすく、豊富なライブラリが利用可能である汎用プログラミング言語です。最近では、機械学習やデータ分析、IoTデバイスの制御でも利用されており、初心者からエンジニアまで幅広く利用されています。

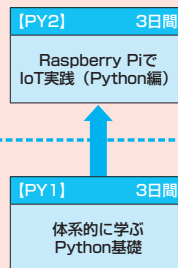
本コースでは、PythonをIoTで活用することを想定し、Pythonの使い方に関する基礎講座、実践的なデバイス制御などの方法を学習する講座のほか、産業利用を想定したケーススタディを通じた体験を通じて、より実践的なPythonの活用を学んでいただきます。

【コース体系】

(レベル)

L3
単独で仕事を
こなせる

L2
上位者の指導のもとに
作業ができる



PY1 プログラミング初心者がPythonのエキスパートに体系的に学ぶPython基礎(3日間)	
特 徴	実用的なプログラムを3日間で作るストーリーの中で、Pythonの基本文法と標準ライブラリの使い方やデバッグ方法を学び、より良いコードを考える演習や受講者同士のディスカッションを通して、効果的な技術知識を必要とするタイミングで学習する。
目 標	- Pythonの特徴的な文法を理解し、基本情報技術者試験のPythonプログラミング問題を解くことができる。 - Pythonでオブジェクト指向プログラミングができるようになる。 - Pythonを開発／実行するための環境を理解し、この先の技術（RPA、データ分析、機械学習、画像処理、Webアプリ開発、サーバー管理）を利用するイメージをつかむ。
対象者	これからプログラミングをはじめの人、他のプログラミング言語（C、Java、PHPなど）を知っているがPython独特の文法に戸惑っている人、データ分析や機械学習などに挑戦しようとしてPythonで躓いた人
前提知識	OS（WindowsまたはMac）でファイルやフォルダの操作ができ、キーボードのタイピングがスムーズに行えること
内 容	【1日目】 1章 Pythonとは 2章 Pythonの環境設定 3章 Pythonの基本文法 1 【2日目】 4章 Pythonの基本文法 2 5章 Pythonの基本文法 3 6章 ネットワーク 【3日目】 7章 Pythonの基本文法 4 8章 課題プログラミング演習 9章 Pythonで利用できる高機能なモジュール紹介  詳細はこちら
受講料	81,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	7月6日(火)～7月8日(木)
開講決定日	6月22日(火)

PY2 電子回路の基礎からIoTのセキュリティまで Raspberry PiでIoT実践 (Python編) (3日間)	
特 徴	- ブレッドボードを使用して電子回路を組むことで、電子部品の特徴と扱い方、そして回路に問題があればその箇所を見つける方法などを実践的に学ぶことができる。 - 制御プログラムで注意すべきポイント、ハードウェアとソフトウェアの両方を調整する知識をバランス良く習得できる。
目 標	- Raspberry Piで電子回路を制御するための知識を身につける。 - Raspberry Piと他のサービスと通信する仕組みを理解し実装できる。 - IoTのセキュリティ課題を理解する。
対象者	IoT（Raspberry Pi）開発技術に興味のある方
前提知識	簡単なプログラムを組めるプログラミング言語の知識をお持ちであること（Python推奨）
内 容	【1日目】 1. IoT 2. Raspberry Pi 3. Raspbian 4. Linux 5. Python 6. GPIOを使ったLED制御 【2日目】 1. GPIOを使ったLED制御 2. GPIOを使ってスイッチ操作を検知 3. SPI通信でセンサ情報を取得 4. I2C通信でセンサ情報を取得 【3日目】 1. LCDに情報を表示 2. サーボモーター制御 3. ネットワークサービスとの通信 4. クラウドのIoTサービスを利用 5. IoTのセキュリティ  詳細はこちら
受講料	81,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	10月12日(火)～10月14日(木)
開講決定日	9月28日(火)

● 昨年度の受講者の声

- ・とても分かりやすく、楽しんで受講することができました。
- ・演習など手を動かす時間がちょうどよかった。（短すぎず長すぎず）
- ・とても聞き取りやすくぼんやりとする時間も少なく集中して取り組むことができました。またテキストもまとまっていて、さらに参考書のページもあり、復習・補完には最適でした。
- ・大変わかりやすくご説明していただき助かりました。
- ・考えていたよりもとても勉強になりました。



◆ モダン開発コース

【研修概要】

最近進んでいるIoT（Internet of Things）の導入による見える化を実現するため、WEB・モバイルのアプリケーション開発が重要となっています。このWEB・モバイルの開発において、短期間で開発するモダンなアプリケーション開発手法が注目されています。

本コースでは、バックエンド（サーバ側）の開発をほとんど必要としないサーバレスアプリの開発や、最近注目のフレームワーク・ライブラリを活用した高速開発・モダンなテストについて、演習を通じて理解を深めます。

【コース体系】

(レベル)

L3

単独で仕事をこなせる

L2

上位者の指導のもとに作業ができる

[MO1]

3日間

AWSサーバレス
アプリ開発実践

[MO2]

3日間

Reactによる
リアクティブ・プログラミング
とモダンテスト

MO1 どこから手を付けばよいかわからない方へ サーバレスアーキテクチャの導入方法教えます！ AWSサーバレスアプリ開発実践(3日間)	
特 徴	- 実際にAWSを利用した演習を交えながら、サーバレスフレームワークの段階的な導入からアプリケーションの作成までを体験できる。 - 基本的なAWSの操作、Lambdaの作成、管理、継続的インテグレーションに関する知見を得ることができる。
目 標	- サーバレスアプリケーションと従来のWebアプリケーションの違いを理解できるようになる。 - AWSを利用したサーバレスアーキテクチャの全体像を把握できるようになる。 - サーバレスアーキテクチャを利用してアプリケーションを作成できるようになる。
対象者	- サーバレス環境を利用した開発を始めたい方 - オンプレミスとサーバレスの違いについて理解したい方 - サーバレスアプリケーションの開発に興味のある方
前提知識	- コマンドプロンプトから基本的なコマンド操作が行えること - TCP/IP（IPアドレス、ポート番号等）の基本的な知識があること
内 容	[1日目] 1. サーバレスアプリケーション概要 2. サーバレスアプリケーションのライフサイクル 3. Amazon Web Service（AWS）利用の準備 4. Webサーバの管理からの解放（Amazon API Gateway、Amazon S3） [2日目] 1. Web App サーバの管理からの解放（AWS Lambda） 2. DBサーバの管理からの解放（Amazon DynamoDB） 3. ユーザ認証サーバの管理からの解放（Amazon Cognito） [3日目] 1. サーバレスアーキテクチャとテストを考える 2. サーバレスのセキュリティを考える 3. 継続的インテグレーションを考える  詳細はこちら
受講料	71,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	2022年2月2日(水)～2月4日(金)
開講決定日	2022年1月19日(水)

MO2 スピーディーにUIを構築!React+Jest でモダンなフロントエンド開発! Reactによるリアクティブ・プログラミングと モダンテスト (3日間)	
特 徴	- 演習を通してフロントエンドの開発からテストまでの流れを体験できる。 - 事例紹介と演習を交えながら、実際のビジネスシーンへReactをどのように利用するべき/利用するべきではないかの考え方を習得できる。
目 標	- Reactの基礎を理解し、Reactで簡単なWebアプリケーションの実装ができるようになる。 - フロントエンド開発のポイントを理解し、保守性の高いコードを書けるようになる。
対象者	- JavaScript初心者から一歩抜け出したい方 - モダンなJavaScriptとTypeScriptについて理解したい方 - JavaScriptで効率よくフロントエンド開発を始めたい方
前提知識	JavaScriptでの変数宣言や制御構文などの基本文法を知っていて、関数・オブジェクト・モジュールを利用した簡単なプログラムを作成できること
内 容	[1日目] 1. Webアプリの2つのサイドとモダンなJavaScript 2. Reactとは 3. Webサーバの役割/Reactの役割 4. フロントエンド開発の前に 5. SPA開発に向けて [2日目] 1. 関数コンポーネントとクラスコンポーネント 2. コンポーネントの3大要素（State、Props、Event） 3. ReactとHooks 4. ReactとFlux 5. 画面遷移（Routing） [3日目] 1. 総合演習 2. RactNative、Electronへの展望  詳細はこちら
受講料	71,000円（消費税10%・教材費込み）
定 員	15名
開催予定日	9月8日(水)～9月10日(金)
開講決定日	8月25日(水)



◆ UI/UXコース

【研修概要】

いわゆる“モノ”から“サービス”へ変化するユーザーのニーズに対応し、自社が開発するサービスをユーザーに選択してもらうためには、UX（ユーザーエクスペリエンス）やUI（ユーザーインターフェース）を考慮したサービスの開発が重要です。

本コースで目標とする人材像は、デジタルトランスフォーメーション（DX）或いはデジタル化を進める上で、ユーザーの視点に立ち、ユーザーに満足してもらえる価値ある体験を提供するサービスをデザインできる人材です。

【コース体系】

【UI1】 1日間

UXデザイン講座
（オンライン）

UI1	UXデザインを取り入れたWEB・アプリ・システム制作及び新規事業立ち上げのためのマインドセットと基礎知識 UXデザイン講座（オンライン）（1日間）	
特 徴	UXデザインの概要とマインドセット、及び基礎知識がわかる。	
目 標	・UXデザイン概念・基礎知識がわかる。 ・UXデザインを学ぶために何が必要がわかる。	
対象者	・UXデザインに興味があるが実践したことがない方 ・新規事業立ち上げでUXデザインを取り入れたいとお考えの方	
前提知識	WEBサイト制作やアプリ制作、システム開発の経験がある方	
内 容	【1日目】 1. UXデザイン概論（概要・マインドセット・基礎知識等） ■UXデザイン概要 ■WEB・アプリ制作、システム開発にUXを取り入れるためのマインドセット ■UXの5段階モデルについて ・戦略・要件・構造（体験設計） ・骨格・表層（UIデザイン） 2. オンラインワークショップ ■UXの基礎がわかるワークショップ	
受講料	76,000円（消費税10%・教材費込み）	
定 員	15名	
開催予定日	10月19日（火）	
開講決定日	10月5日（火）	



詳細はこちら

◆ デジタルビジネス創出コース

開講決定
1ヶ月前

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、IoT等のデジタルテクノロジーを活用した新しいビジネスへの転換が加速する時代において、不足していると言われている「デジタルビジネス創出思考力を有する人材」です。

この実践ワークショップでは、デザイン思考をはじめとする「ビジネス創出に欠かせない思考メソッドと共創ツール」を活用し、実際にデジタルビジネスを創出するという一連のプロセスを体験・体得します。様々なキャリア背景を有する他社の人々と、本音で対話し、必死に考えてアイデアを創り出し、議論しながらアイデアを磨いていく、という過程を通じて、深い気づきと新たな発見を得ることが期待できます。

【コース体系】

【DX1】 3日間

デジタルトランス
フォーメーション
実践ワークショップ

DX1	DX時代に欠かせないビジネス思考 ―ビジネス変革をデジタル活用から駆動する― デジタルトランスフォーメーション 実践ワークショップ（3日間）	
特 徴	・劇的な変化が続くマーケット動向を、テクノロジーとビジネスの関係性から紐解くことができる。 ・DX推進からビジネスを創り出す、変革する一連のプロセスを体験し、諸活動における重要なポイントが理解できる。 ・異業種や異なるキャリアを持つ人が集う多様性ある「場」にて、自社や自身の強み・弱みを発見するだけでなく、全く新しい考え方や発想を得ることができる。	
目 標	・DX推進プロセスを自ら動かすことができる。 ・ビジネス創出及び変革をワークショップを通じて試行錯誤する中、現場実践におけるノウハウや勘所を自ら獲得できる。 ・DX企画書を構想、及び作成できる。	
対象者	・DX推進を担当している方 ・IoT/AIなどのデジタルテクノロジーを活用した新しいサービスやビジネスを創りたい方 ・新サービスや新商品などの企画や、新規ビジネス創出を担務とされている方 ・自社における新たなソリューションや商品の企画を他社と共に考えたい方	
前提知識	一般的な法人組織の構造と役割を理解していること（概ね実務経験3年以上）	
内 容	【1日目】 1. インプットセッション 2. Work 1 ケーステーマ理解 3. Work 2 保有データの棚卸し 4. Work 3 アイデア発想 5. Work 4 サービス価値の定義 【2日目】 6. Work 5 ビジネスモデル構築 7. Work 6 企画書サマリの作成 8. アセスメント指標 9. 自社テーマ設定 10. Work 1-4 保有データの棚卸し - サービス価値の定義まで（自社テーマ） 【3日目】 11. Work 5-6 ビジネスモデル構築 - 企画書サマリ作成まで（自社テーマ） 12. 企画サマリアセスメント 13. リフレクション	
受講料	122,000円（消費税10%・教材費込み）	
定 員	20名	
開催予定日	9月16日（木）、17日（金）、24日（金）	
開講決定日	8月16日（月）	



詳細はこちら

◆ 受講申込から開講までの流れ

受講申込は、「高度 IT 人材育成研修」Web サイトからお願いします。

0. 企業登録

本 Web サイトにおいて、未だ企業登録がお済みでない場合は、研修申込責任者など企業のご担当者様にご登録をお願いします。

「企業登録」ページにてご登録をお願いします。登録後、各企業の「My ページ」が作成されます。

1. 講座の申込み

受講を希望される方が「高度 IT 人材育成研修」に初めてお申し込みいただく場合、社員情報の登録が必要です。「My ページ」の「社員登録情報管理」ページからご登録をお願いします。



受講申込（仮受付）

「高度 IT 人材育成研修」Web サイトの「My ページ」にログインし、コース一覧から申し込む講座をご選択いただき「受講申込」にて申込み枠を確保してください。その後、「受講者登録」から受講を希望する社員を選択して、ご登録ください。

受講申込は、登録順に受け付け、定員になり次第「キャンセル待ち」となります。

受講キャンセルは、開講決定日までにお願いいたします。それ以降のキャンセルはキャンセル料（原則として全額）をいただきます。

(1) E-ラーニング講座の場合

申込み受付後に送信される電子メールの内容に従って、手続きをお願いいたします。

受講が終了したら高度 IT 人材育成担当までご連絡ください。

(2) 集合研修（E-ラーニング以外）の場合

以下の流れで手続きを進めます。

受講決定（開講可否決定）

受講者が最少開講人数に達しない場合、やむを得ず開講を中止する場合があります。開講決定日に開講可否の判断を行い、「開講決定」又は「開講中止」を電子メールにてご連絡いたします。

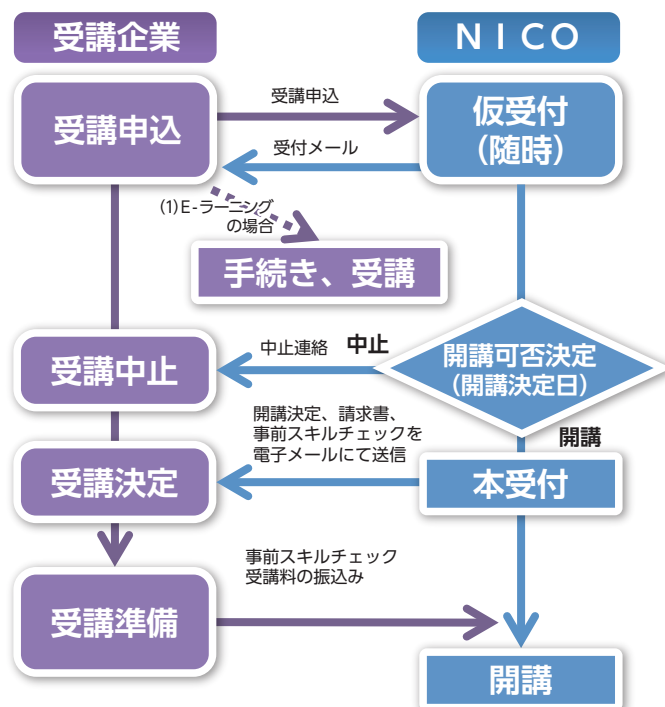
開講する場合、受講者には事前スキルチェックの依頼もお送りいたしますので、速やかにご回答ください。

受講準備

受講者は、開講 1 週間前までに事前スキルチェックを実施してください。

また、受講料は、原則として開講 3 営業日前までに、指定の銀行口座にお振込みください。

なお、受講料には、消費税 10%及び教材費が含まれております。



(※) 開講決定日：講座概要ページに「1ヶ月前」等の指定がない場合は、開講予定日の2週間前とします。

お問い合わせ先：公益財団法人にいがた産業創造機構 産業創造グループIT支援チーム 高度IT人材育成担当
● TEL 025-246-0069 ● FAX 025-246-0030 ● E-mail kns@nico.or.jp

研修Webサイト <https://www.nico.or.jp/kensyu/>

